

かき「刀根早生」のカリ肥料削減栽培

1. はじめに

徳島と香川の県境には、東西に帯状をなして阿讃山脈を形成しています。この地域の土壌は、主に和泉層群と呼ばれる砂岩を母材とする黄色土が分布しており、別名和泉砂岩ともいいます。この土壌の特徴の一つとして、カリ成分が他の土壌に比べ比較的多く含まれていると言われてきました。

当所では1987年から渋柿品種「刀根早生」を用いて、カリ肥料の削減栽培試験を開始しました。カリ肥料を県基準量(年間10a当たり16kg)施用した区を標準とし、標準の半分量、1/4量、さらに全く施用しない区の合わせて4つの試験区を設け、現在も試験を継続中です。

2. 樹体生育について

カリ肥料を標準量施用した場合と12年間一度も施用しなかった場合と比べても大きな差はなく、試験当初から順調に生育を続けています。

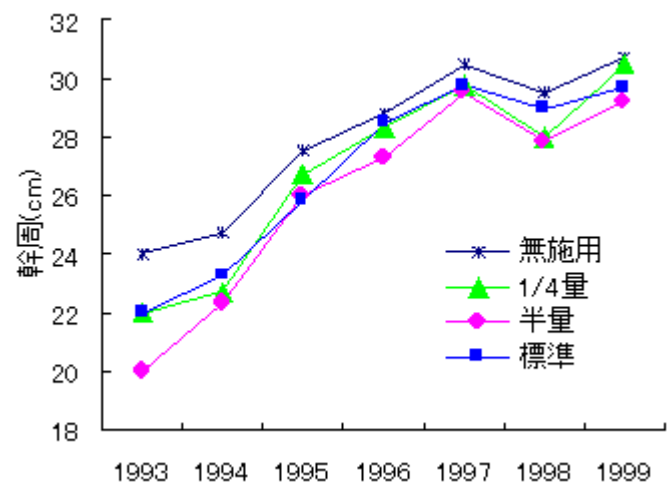


図1 幹周の推移

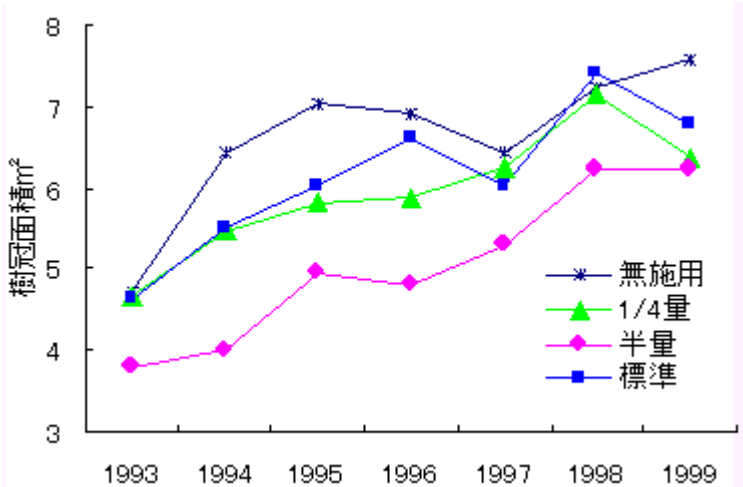


図2 樹冠面積の推移

3. 収穫量について 1993年(樹齢8年生)から1999年(同14年生)まで7年間の累積収穫量は、1/4量区が最多で、次いで無施用区、半量区、標準量の順になっています。1樹当たりの累積収穫量を比較すると、最多の1/4量区と最少の標準量区の差は僅かで、カリ肥料の削減による収穫量への影響はほとんど無いものと思われます。

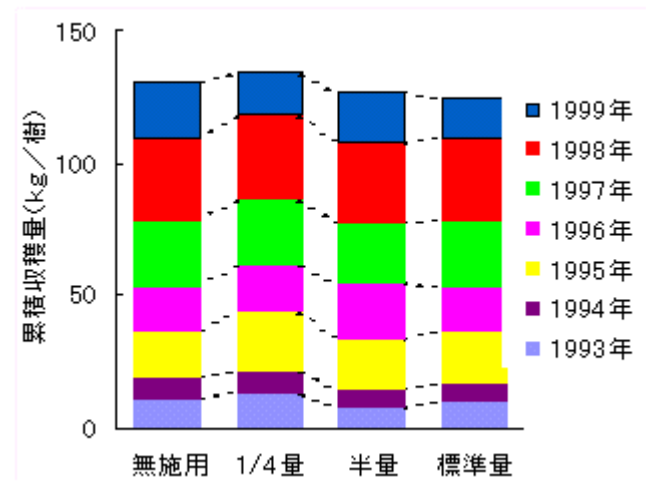


図3 7年間の累積収穫量



写真1 試験樹の全景

4. まとめ 試験開始から14年間の結果をみると、和泉層群が分布する地域において柿のカリ肥料の削減栽培は十分可能であると考えられます。環境にやさしい農業を实践 する上で、非常に有効かつ現実性のある技術と考えています。ただし園地条件(栽培土壌が浅く乾燥しやすい園地、和泉層群に属さない土壌の園地)や栽培管理 の違いによって、本結果と同一にならないケースもあり得るので、樹の栄養診断や土壌診断と合わせて実践すべきと考えます。

以下の関連ページもご覧下さい。

和 泉砂岩地帯におけるカキ「刀根早生」のカリ減肥試験
(果試ニュースNo.81)

問い合わせ先 徳島県果樹研究所県北分場 TEL088-694-2712、FAX088-694-2526